

名古屋大学医学部 化学療法学（附属病院化学療法部）【大学医局紹介～がん診療編】

公開日：2024/07/17

企画・制作 ケアネット

■インデックスページへ戻る

がん患者の増加が見込まれる中、がん診療に携わる大学病院の医局にスポットライトを当て、その魅力をお伝えします。各医局の基本情報や研修プログラムの特徴を紹介するほか、所属する先生方からそれぞれの立場でコメントをいただきました。



- 安藤 雄一 氏（教授）
- 満間 綾子 氏（病院講師）
- 近藤 千晶 氏（病院助教）
- 宮井 雄基 氏（医員）
- 講座の基本情報



安藤 雄一（あんど う ゆういち）氏
名古屋大学医学部附属病院化学療法部 教授

医局独自の取り組み・特徴

化学療法部では、腫瘍内科の診療とともに、外来化学療法室の運用、がんゲノム医療外来、診療科横断的なカンファレンスやコンサルテーション対応、化学療法レジメンの整備、緩和ケアチームの活動、がん診療連携拠点病院の事業、そしてがん薬物療法の実践的な教育などに取り組んでいます。いずれも日頃からの各診療科や部門との連携によって、初めて実践できるものです。

専用病床では、新規抗がん薬の治験や稀ながんや重篤な合併症をもつ患者さんの診療を行っています。名大病院は「臨床研究中核病院」、「がんゲノム医療中核拠点病院」に選定されており、それらの関連事業においても化学療法部は重要な役割を果たしています。昨年度から開始されている文部科学省「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン（がんプロ）」では、がん医療を担う大学院生や専門医療人材の養成に取り組んでいます。



毎朝行われる多職種カンファレンス



満間 綾子 (みつま あやこ) 氏

名古屋大学医学部附属病院化学療法部 病院講師

同医局でのがん診療/研究のやりがい、魅力

外来化学療法室では、小児から高齢者まで外来で抗がん薬の点滴投与を受けるすべての患者さんに対応しています。殺細胞性抗がん薬はもちろん、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬など臓器横断的に使用されるレジメンが増える中で、多彩な副作用をうまくコントロールすることが求められています。担当医だけでなく、今までがん医療と関連が少なかった分野の専門医や多職種との連携、地域との連携など院内外でのチーム医療が重要です。腫瘍内科学のオンザジョブトレーニングを通して科学的で適切ながん薬物療法を実践できる環境です。



外来化学療法室での処置

医局の雰囲気、魅力

医局では大学院生から医員、教員まで、多様なバックグラウンドをお互いに尊重しながらそれぞれの特色を活かした診療や学術活動を行っています。今後のキャリアパスを考える上で、ロールモデルを見つけることもできますし、迷いが生じた時にはさまざまな経験に基づいたアドバイスを得ることが可能です。

■ [ページTOPへ](#)



近藤 千晶 (こんどう ちあき) 氏

名古屋大学医学部附属病院がんゲノム医療センター (化学療法部)
病院助教

これまでの経歴

大学卒業後、市中病院で初期研修を行いました。研修終了後の進路として腫瘍に加え、アレルギー、感染など多様な分野が含まれるという理由で呼吸器内科を選択しました。各分野の疾患の診療を通じて難治である進行肺がんの化学療法、中でも分子標的薬に興味を持ち、がん薬物療法専門医を取得するとともに、大学院で学びました。このような経歴もあって、現在はがん種横断的にがんゲノム医療に関わり、化学療法部での仕事・診療とともに名大病院のがん遺伝子パネル検査とエキスパートパネルの運営を行っています。

今後のキャリアプラン

がんの性質を知り、がん患者さんの化学薬物療法の選択肢を広げるためのがんゲノム医療は、2019年の保険診療開始から常に状況が変化しています。がんゲノム医療を多くの患者さんに届け、また名大病院内や地域のがんゲノム医療の普及のための活動、研究を続けたいと考えています。



宮井 雄基 (みやい ゆうき) 氏

名古屋大学医学部附属病院化学療法部 医員

これまでの経歴

初期研修を終えたのち、大学院入学とともに入局しました。基礎と臨床の両方を学ぶため、横断的ながん薬物療法の臨床経験を積みながらがん薬物療法専門医を取得する一方で、腫瘍病理学でがんの間質に多く存在するがん関連線維芽細胞に注目し、これらが免疫治療の効果にどう影響するかについての基礎研究にも励んでいます。

現在学んでいること

治療法の最新動向の把握や有害事象への対応法だけでなく、腫瘍学以外の分野も含めて幅広い知識を日頃から学んでいます。最近では、定量的解析手法の習得に注力しています。具体的には、大規模オミクスデータを解析する手法や高度な統計手法を学び、実際に臨床データや実験データの高精度な解析に応用しています。

今後のキャリアプラン

海外留学など異なる文化圏での仕事や、他分野の研究者と接することで、視野を広げたいと考えています。この過程で目標が変わる可能性もありますが、現時点では、まだ治療法が少ない、あるいは治療薬開発への機運が乏しい、稀な悪性腫瘍の治療実績の改善に貢献できる医師・医学研究者となることを目指しています。

名古屋大学医学部 化学療法学（附属病院化学療法部）

住所

〒466-8560 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65

問い合わせ先

chemo-sec@med.nagoya-u.ac.jp

医局ホームページ

☞名古屋大学医学部附属病院化学療法部

専門医取得実績のある学会

日本臨床腫瘍学会

日本緩和医療学会

日本人類遺伝学会

日本内科学会 など

研修プログラムの特徴

- (1) 臓器横断的な臨床腫瘍学のトレーニングが可能
- (2) がん薬物療法学、緩和ケア、ゲノム医療、トランスレーショナルリサーチなど多様な領域の研修・研究が可能

☞名古屋大学医学部附属病院化学療法部【動画】